

# 都中英研だより

第 56 号

東京都中学校英語教育研究会  
会 長 備里川 正人  
(足立区立第十四中学校長)

## 研究部

### 「語いサマワークショップ(WS)の報告」

#### 1. 例年以上の参加者を数える

研究部の夏WSは今年で6年目となった。毎年、約90人の参加者と共に研修してきたが、今年は例年になく参加希望者が多く、約130人であった。

#### 2. 夏WSの目的と内容

このWSの目的は研究部が行っている研究、実践を都全体に広め、英語指導力向上に貢献することである。特に現在研究中のCollocation指導を中心に部員が授業で実践した事例をワークショップ形式で、参加者に生徒役をしてもらい、実際の授業を体験していただく内容である。

#### 3. 今年の夏WS内容と参加者の声(\*)

毎回の会場校は研究部員の所属校で行っている。

7/28(月)会場：江東区立深川第八中

・「中2教科書導入から語い指導、音読、速読へ」

WS担当：石井 亨(江東区立深川第八中)

\*今までにQを与えて答えを確認するだけで終わっていましたが、生徒側に立てば、答えの見つけ方、答え方を導いた方が良かったと思いました。

・「中3自ら学ぶ力を育成するための語い指導」

WS担当：関口 智(葛飾区立常盤中)

\*授業の楽しさ(先生の全身を使った指導)やCollocationを使ったり、辞書を使って学習している様子がとてもよく伝わってきました。

・「本文暗唱からReproduction, Summary writing」

WS担当：原田博子(江東区立深川第一中)

\*ReproductionやSummary writing指導は大変そうに見えますが、同じことのくり返しやモデルを与えて何度も練習することで段々と力が付いていくのではないかと思います。

8/8(金)会場：中央区立銀座中

・「重要動詞Collocationを使ったテスト開発」

WS担当：北原 延晃(港区立赤坂中)

\*Word Definition Gameは楽しく復習できてとても良いと思いました。また、“きちんと発音

ができる綴りを書ける”のは本当にその通りで、あらためて発音指導の大切さを実感しました。

・「児童英語の実践とのつながりを考える」

WS担当：岡崎 伸一(品川区立日野学園)

\*BBカードを初めて知りました。小学校から導入して中学校まで継続して使用できるのは小中一貫校ならではのようです。

・「基礎基本の定着と語い指導」

WS担当：岸 由季(町田市立山崎中学校)

\*模擬授業は分かりやすくて良かった。定着のための「6回」はいつも意識していきたい。

8/21(木)会場：板橋区立高島第三中

・「中2対象の語い指導・Collocationを中心に・・・」

WS担当：鶴田峰子(中央区立銀座中)

\*繰り返し形を変えてCollocationを意識させる場面を設けていて参考になりました。

・「Collocationを意識した会話練習とSpeaking test」

WS担当：佐々木孝紀(江東区立深川第七中)

\*Collocationを意識した例文のリストは高校の語法指導にもつながるので参考にします。

・「中1での動物説明(Collocation指導)」

WS担当：石井 亨(江東区立深川第八中)

\*多くの生徒が参加できるようにstructure、単語の提示、Trial Testを行い、間違いを自分で直す力をつけさせるという過程がとても勉強になりました。

江東区立深川第八中 石井 亨



# 「葛飾区の取り組み」【葛飾区の英語学芸大会】

葛飾区には24の中学校があり、1校に夜間中学校が設置されている。本区の英語学芸会にあたる行事は、現在「葛飾区立中学校英語スピーチ&プレイコンテスト」という名称で毎年実施し、平成20年度まで23回開催してきた。

第1回大会は昭和61年度（1986）に実施されている。当初は中学校を会場にし、毎年会場を持ち回り制で実施してきた。出場者も全校からではなく、英語教員の関心があるかどうかで出場者が決まる状況だった。都の英語学芸大会に出場するための予選というコンテストであった。

しかし、葛飾区が区民のために大型の文化施設を建設するときに、フルオーケストラが演奏でき、国内屈指の音響施設の整った観客者席1300のコンサートホールの建設が決まった。ちょうど葛飾区と友好都市を結んでいるウィーン市フロリズドルフ区から日本で唯一オーストリア共和国の許可を受けたウィーン市のモーツアルト像の完全複製像が寄贈され、正面玄関に設置され、名称はモーツアルトホールとなった。そしてサブの会場として観客者席300の小規模なホールが同時に設置され、葛飾区の花「しょうぶ」の英語名を冠してアイリスホールと名付けられた。2つをあわせてかつしかシンフォニーヒルズという名称が公募によって付けられた。

平成4年度（1992）、英語のスピーチコンテストも会場をこちらに移し、毎年開催される運びとなった。陸上競技大会、水泳大会、音楽会、学芸会等、教育委員会主催の連合行事となっているため、英語スピーチも連合行事にして全校参加を基本にした大会となった。

学校の体育館と異なったことで出場者の意欲が変わった。プレイ部門も大舞台でできることで取組姿勢が変わった。

本区のコンテストの特徴は上記の会場が素晴らしいという背景があることと、24校が必ず出場することで、大会も朝10時から午後5時までたっぷり1日かけている点である。

部門はレシテーションの部、プレイの部、スピーチの部と3部門ある。内容も少しずつ変えて充実を図ってきたが、現在はレシテーションには1年生のみの出場で2分以内。プレイは20分、スピーチは5分と都大会の出場資格に合わせている。

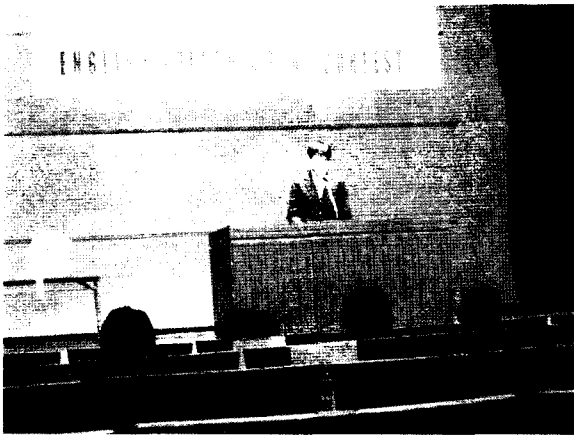
英語の授業にALTが入るのが当たり前になったことや、自分から進んで英語でスピーチをしたいと希望する生徒が増え、スピーチ部門に35人以上も出場し、審査するのも大変になったため、スピーチの部への出場枠を平成18年度、第21回大会より各校1名に制限せざるを得なくなった。

この3年間、ほぼ出場者が同数である。本年はレシテーションに12名、プレイに2校、スピーチに22名が出場し、24校すべての学校から参加があった。近年レベルの向上が見られ、出場者はかなりしっかりと練習を積み、本番に備えてくるので、見応え、聞き応えがある。プログラムはレシテーションとプレイを午前に行い、ALT2名と英語教員3名で審査する。スピーチは午後に行い、ALT2名と別の英語教員4名で審査する。表彰は1～3位と奨励賞を若干名出すが、プレイは1位と奨励賞のみである。進行は英語を主体にし、生徒も司会を担当する。区教育委員会や校長会のあいさつも英語を交えて行っている。ほとんどの学校の校長か副校長も来場してくれるのが定着してきた。

平成12年度都大会に出場した英語劇が3位、19年度のスピーチが2位に入賞するなど実績をあげている。

平成11年度にスピーチの部で優勝したのが2年生女子であったが、都大会への出場枠が区で1つという制限のため葛飾区代表は英語劇に決まった。この生徒は、その悔しさに奮起し、翌年仲間の有志生徒を集めてプレイの部に出場した。脚本、演出、衣装、大道具、小道具、音響・照明など生徒の手作りで仕上げた。見事な演技で区の代表になったが、出場が決まったあとは保護者も衣装その他で支援をし、葛飾区では初めて都大会で入賞した。





近年、スピーチの部の優勝者は翌年7月葛飾区保護司会主催の「かつしか区民の集い」に、少年の主張入賞代表者とともに出場し、英語スピーチの実力を披露し好評を得ている。

このように、本区の英語スピーチ&プレイコンテストは区教育委員会はもとより区民の皆様にも支援していただける大会に成長してきた。今後、さらなる内容の充実と発展を期待している。これまで多くの関係諸機関、区中学校校長会、区教育研究委員会英語研究部の方たちに、第2回大会より運営に携わってきた1人として深く感謝したい。

葛飾区立高砂中学校長 余野直紀

## 全英連中学部上半期の活動報告

### はじめに

今年度は全中英協の発展的解消後、更に大きな改革の年である。全英連会長選挙の実施である。

全英連は今日まで下記のように歩んできた。今後、全英連が更に開かれた組織として存続するよう会長選挙となった。

- S 25.12.10 全英連結成
- S 57.7 .31 全中英協設立
- H 13.5 .11 組織改善検討委員会発足
- H 17.7 .28 全中英協発展的解消（全英連）
- H 20.9 全英連会長選挙実施

立候補者は選挙規約に基づき届出を行い、選挙管理委員長を通し、会長としての主張を述べる。全国どの地からも中学校や高校の校種にこだわらず校長職にあるものは立候補できることになった。秋には当選者が決定し、公示され11月の鹿児島大会総会で新会長挨拶のはこびになる。

### 1 夏季全国理事会の開催

「中学校教育における現在の課題とこれから」 前文科省教科調査官 平田和人氏  
学習指導要領のねらいを中心としてご講演を戴いた。

### 2 第58回 全英連 鹿児島大会の開催(11/21)

「Ishin—世界を拓く若者が育つ英語教育」を大会コンセプトとして英語好きを育て、実践的コミュニケーション能力や積極性を培い、世界の未来に貢献しようとする志をもった日本人を育成することを目標とするものである。

### 3 第59回 全英連 東京大会に決定

平成21年10月17、18日(日大文理学部)に東京大会が開催される。新学習指導要領が今春に公示され、指導法も変化していくが、目下大会にふさわしいテーマを模索しているところである。来年度から小学校英語が本格的に外国語活動として5年生及び6年生に導入される。外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しみながらコミュニケーションの素地を養うとあり、今後は更に中学校英語との連携が求められる。

副会長 清水研一郎

## 各区市町村英語教育研究部部長会・幹事会の報告

平成20年8月28日、豊島区立西池袋中学校にて、標記の研究協議会が開かれました。各地区の部長や幹事の先生方が多く参加して、盛況でした。内容は次の通りでした。

- 1 会長挨拶・講師紹介（中英研 備里川正人会長）
- 2 講演「これからの中学校英語教育について」（東京国際大学 新里眞男教授）  
質疑応答
- 3 協議・連絡
  - (1) 新学習指導要領について（中英研 竹下賢副会長）
  - (2) 関東甲地区英語教育研究協議会東京大会について（中英研 備里川正人会長）
  - (3) その他（各部長より）
    - 夏期語いワークショップの報告（北原延晃研究部長）
    - コミュニケーションテストについて（重松靖調査部長）
    - 関プロ長野大会について（飯島光正副会長）
    - 全英連鹿児島大会について（飯島光正副会長）

新里先生のご講演は、新学習指導要領に触れられ、今回の改訂に関わる背景となっている考え方について、丁寧に解説していただきました。小学校で行われる英語活動との関連、統合的な言語活動を展開するための視点、言語材料のとらえ方、等について、英語科教員が心得ておかなければならない点を網羅していただきました。短い時間ではありましたが、新学習指導要領を概観することができました。

続いて、竹下副会長より、新学習指導要領に関する都の説明会の要点が示されました。そして、中英研各担当部長より、報告・連絡があり、有意義な研究協議会となりました。



出版部長 池田武男

### ★★ お知らせ ★★

#### <中英研関連出版物>

『コミュニケーション・テストへの挑戦』

根岸雅史、東京都中学校英語教育研究会 編著（三省堂 2007年発行）

『中学生の楽しい英語劇-Let's Enjoy Some Plays』

東京都中学校英語教育研究会 編著（秀文館 2004年発行）

#### <中英研ホームページ>

中英研の動向、情報をお知らせいたします。本「都中英研だより」もいち早くご覧いただけます。

<http://www.chueiken-tokyo.org>

都中英研だより56号をお送りします。さて、今回もまた『各地区英語研究会の紹介』を掲載させていただきました。都内の各地区では、地域に根ざした活動を展開したり、授業改善のための地道でありながら熱心な取組がなされています。このような実践的な取組を紹介することも、中英研の使命と考えております。どうぞお気軽に出版部まで、お知らせください。今後とも、中英研の活動にご理解いただければ幸いです。

連絡先：西東京市立田無第四中学校 副校長 池田 武男（中英研出版部長）  
TEL: 042-465-6113 FAX: 042-469-2181 Mail: j-tanas4@nishitokyo.ed.jp